慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	文学における"遊び"
Sub Title	Play in literature
Author	岩松, 研吉郎(Iwamatsu, Kenkichiro)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2005
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.88, (2005. 6) ,p.140(171)- 140(171)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2004年度藝文学会シンポジウム : 文学における"遊び"
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00880001-0140

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2004年度藝文学会シンポジウム
――文学における“遊び”――

本学会は1964年以来、研究発表会にくわえて、適宜の主題をめぐるシンポジウムを、学会内外の報告者（講師）によって開催している。

第1回「文学における女性」から40周年となる2004年度は、学会委員長岡晴夫教授の退任送別の意をふくめて、同教授提唱の題目「文学における“遊び”」について、2004年12月17日（金）午後２時45分から5時30分すぎまで、三田・北館ホールでおこなわれた。

講師は、いづれも学会員・本塾大学文学部教授の、岡晴夫（中国文学）・高宮利行（英文学）・荻野安奈（仏文学）、司会・進行を岩松研吉郎（国文学）が担当した。

各報告の概略は、以下に掲載したが、「遊び」を文芸の具体相に即してとらえる点を共通の前提としている。作家、テクスト構成、用語・表現のそれぞれから出発しつつ、論議（会衆からの質疑・提言もふくむ）の中では、戯笑性、身体と性、（テクスト自体のそれをもあわせた）暴力性等々の問題が検討された。

もとより単純な結論にいたらぬことは当然で、それは、文学研究そのものが、「文学における“遊び”」のメタテクストであることをもしめしている。

（岩松研吉郎　記）